

## I 教育目標

人権と多様性を尊重する態度を養い、自ら人生を切り開く力を伸ばすことで、一人一人の自己実現を支援し、主体的に地域や社会に貢献出来る人間を育てる。

## II 学校経営方針（中期経営目標）

「真の自己実現にTRY」、「好きから始まる新しい学び」、「自分を超越しよう！可能性は無量大」をスローガンに、生徒と教職員双方のウェルビーイングの確保と向上を図りながら、教育目標の具現化に向けたキャリア教育の推進を継続し、「基礎・基本の充実」を「質の高い学力」につなげ、生徒の力が「伸びる学校」・生徒の力を「伸ばす学校」として、周囲に信頼され社会に貢献できる人間を育てる。

本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、教育課程を創意工夫し日々の教育活動の充実に努め、希望進路を実現し心豊かにたくましく生きる人間を育てる。

- 1 地域に密着し教育で支える学校として、生徒が基礎・基本を習得し実社会での活用法を学ぶことを通じて、様々な課題に対し協働的・主体的に取り組み、解決する力を養う。
- 2 キャリア教育推進により生徒の興味・関心を尊重して主体的な「学び」を支援し、積極的社会生活を営みうる職業観を醸成し生きる力を育み、社会に貢献する人間を育てる。
- 3 生徒一人ひとりを大切に、毅然として寄り添う愛情のある生徒指導を軸に、基本的生活習慣の確立、「自学・自習」の習慣の定着、個に応じた希望進路の実現を図る。

## III 本年度学校経営の重点目標（短期経営目標）

### 1 希望進路の実現に向けた学力の充実

- (1) 授業を大切にす姿勢と授業規律の確保に努め、基礎学力の定着と学力の伸長に向けた主体的な学習者を育成するための各取組の実践を図る。
- (2) 個に応じたていねいな指導を行い、わかりやすい授業づくりや学習を支援するために、ICT 機器や学習支援システムの積極的な活用を図る。
- (3) 多面的評価に資する観点別評価を充実させ、学習指導要領・生徒指導提要に沿って、生徒指導の3機能を念頭に、各科目の指導計画及び内容の研究・実践を進める。

### 2 自己有用感を高める生徒指導の徹底

- (1) 挨拶や身だしなみ、整理整頓、清掃等の基本的生活習慣の確立や、SNS、薬物乱用防止、交通安全等の規範意識の醸成に向けて、学校、家庭、地域が協働して指導を行う。
- (2) 各行事や生徒会、部、ボランティア等の活動をとおして、自己有用感の高揚を図り、主体的に行動できる態度を育てる。
- (3) 生徒個々の背景や抱える課題の改善、克服、支援に向けて、多くの教員が関わりながら温かく丁寧に指導し、必要に応じて外部機関との連携を強化する。
- (4) 「東稜大作戦」等の取組により、生徒と教職員が一体となって、高校生活を楽しくし、生徒の帰属意識と満足度を高め、学力伸長と希望進路の実現につなげる。

### 3 人権教育の推進

あらゆる場面での一人一人を大切にす指導を通じて多様性の理解および自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成し、ウェルビーイングの深化を図る。

### 4 キャリア教育の推進

- (1) 本校の各コース・分野の特色をより明確化し、生徒の興味や関心に応じた主体的な「学び」の展開や、「総合的な探究の時間」等を活用しながら、地域や上級学校、企業等と連携し、変動の激しい社会に対応できることを目指したキャリア意識の高揚を図り、職業観の醸成、希望進路の実現につなげる。
- (2) 生徒に選択と表現の機会を提供し、自ら考え人生を拓く態度を養い、自律かつ自立した成人としての生活力を身に付けられる契機とする。

### 5 その他

- (1) ホームページや学習支援システム、公式 SNS などを活用し、本校の特色や教育活動の様子、緊急時の対応等の情報を適切に発信する。
- (2) 会議などの精選、ICT、グループウェアの積極的な活用により、教職員の働きがい意識した働き方改革を進め、教職員の心身の健康を維持する。
- (3) 地域との連携を深め地域に貢献するとともに、本校の教育活動を広く社会に知らせることで志願者の確保に努める。

## IV 前年度の成果と課題

- 1 学力の定着をねらいとする取組、学力伸長の取組、個々の進路希望に応じた指導により進路実現はおおむね達成した。生徒の実態に即した目標の設定、指導内容・方法の工夫と改善、発達や心身および家庭環境等の課題に応じた適切な支援を含む指導と評価の一体化をさらに進めることにより、学習意欲を高め学力向上に努める。
- 2 各コース・分野とも外部機関と連携しキャリア意識の醸成に向けた取組を実施した。引き続き「総合的な探究の時間」を教科横断的、系統的に実施し、学びの成果を生徒自らが発信する機会を通して生徒の自己有用感を高める工夫を行う。
- 3 基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、自他の人権を尊重する意識や態度を身に付ける指導を保護者等や外部機関との連携を一層進めながら継続する。
- 4 必要とされる教育的ニーズに対して支援を行うことができた。今年度もより細やかに情報を収集し、適切な支援につなげる取組を積み重ねる。

令和8年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
組織運営	スクールミッション・スクールポリシーに基づいた教育活動を全教職員の共通認識に基づき、具体的な取組の中で実践する。	会議や資料提供によって情報の共有化を図り、日常的に意見交流を行える環境をつくり、スクールミッション・スクールポリシーを踏まえた教育活動について共通理解を図る。 研修会の開催や校外研修会、管外視察等への積極的な参加により、本校の教育活動を随時点検、確認する。			
	本校の今後の方向性や新学習指導要領、生徒指導提要进行を踏まえ、地域から信頼されるよりよい学校づくりを実践する。	生徒指導提要进行を会議や研修会等多くの機会に触れることで共通理解を深め、生徒の成長に繋がる指導方法等の改善に努める。 各指定事業を本校の教育活動に位置づけて、新学習指導要領に基づき効果的な実施を図る。			
学習指導	BYODやICT機器、学習支援システムの積極的な活用を図りながら基礎学力の定着を図る取組を組織的・系統的に行う。	Classi, ロイロノート, 自動採点システムなどを活用するための情報を教員間で共有し、組織としての学習支援システムの浸透を図るとともに、学習用端末の効果的な使用方法の浸透を図る。 公開授業等の中で、ICT機器・学習用端末を効果的に使用している例を集約して、教員間で共有・協議する。			
	生徒が興味を持つ授業づくりのための工夫と各教科において観点別評価の研究を一層深め、指導と評価の一体化を確実に実行する。	教員間で定期考査の結果や評価について共有し、組織として指導と評価の一体化を進める。また、個人の中だけではなく、各教科内での協議をもとに、指導と評価のPDCAサイクルの実践を促す。 教科を横断した、公開授業の参観等を利用し、教員同士が意見交流することで生徒が興味を持つ授業づくりを推進する。			
キャリア教育	各コース・分野の学習内容とも関連付け、地域や上級学校、企業等との連携を進めることで、すべての生徒のキャリア意識の高揚を図る取組を実践する。	様々な活動を通してインプットした力を、アウトプットする機会を設け自己肯定感を身に付けさせる活動を増やしてゆく。 目標達成のために、地域とのつながりを深め、学校活動と地域社会ができる限り密接に交わる場を設ける。また、校内でも各コース・分野の取組を知る機会を築いてゆく。			
	「総合的な探究の時間」を教科横断的、系統的に実施し、協働学習、プレゼンテーション等とおして主体性を培う。	綿密な学習計画に基づき、生徒達の表現活動の目標設定を学期ごとに設け、主体的に取り組める活動に結びつけてゆく。 探究活動における協働学習を通して、自他を大切にする力を育み、ホームルーム、学年の一体感が高まる学習活動に努める。			
人権教育	自他の生命と人権を尊重する意識や態度を身に付ける取組を実践しつつ、教育活動全体を通して人権感覚の涵養を図る。	日々の授業やホームルーム活動を通して、深い信頼関係に基づく人間関係の構築を促す。 人権学習や総合的な探究の時間、各教科の授業などをきっかけに、自己の行動の振り返りや他者との意見交流を図り、多様性を認め合う心および人権を尊重する意識や態度を育てる。			
生徒指導特別活動	基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を育成する。	授業規律、身だしなみ・校則を守る意識と行動を第一にスマートフォンの使用マナー・自転車乗車マナー等の課題において、生徒自身が判断する場面を設定し、学年部と連携を図り指導する。 生徒個々の特性の理解に努め、教育支援の手法を用い、個に応じた指導をする。			
	人権と多様性を尊重する態度を養い、自己有用感の高揚を図る取組を進める。	既存の校則を生徒の学校生活に活かす工夫と、それに伴う課題の検証を行い、生徒の規範意識を育てる観点で指導する。 各種行事の取組を自主活動と捉え、生徒の自治能力を高め、リーダーを育成する観点で指導する。			

令和8年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
進路指導	キャリア意識を高めて、自らの将来を主体的に切り拓く能力を育成する。	Classiの連絡ツールを活用し、生徒・保護者へ進路指導部主催の行事や取組を紹介し、参加数の増加を目指す。 大学受験の合格数の増加を目指し、計画的に整備を進め、合格増につながるよう指導体制を整備する。			
	希望進路の実現に向けて進路別取組を実践し、一人に合った学力伸長を図る取組を行う。	Classiの学習記録を活用し、家庭学習時間の向上を図る。 国公立難関私立大学進学希望者の進路指導体制を整備し、希望生徒について早期から指導を継続し、志望校受験に必要な教科・科目、受験方式への対応ができるよう個別指導の体制を整備する。			
健康安全 特別支援	健康に関心を持ち、適切に行動できる知識と態度を身に付けさせる。	健康診断、生活とからだの実態調査を実施する。 健康に関する情報を委員会を通して積極的に発信する。			
	教職員・生徒全員で校内の美化に努め、気持ちの良い学習環境を整える。	月例大掃除を実施する。 美化週間を実施し清掃点検を実施する。			
	生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な支援を組織的・継続的に行う。	多様な課題を持つ生徒の状況把握し情報を共有する。 支援が必要な生徒に組織的・継続的に支援を行う。			
学校 図書館	効果的な教育活動の実践に向けて、図書館機能のICT化を一層進め、最大限に活用できる体制づくりを進める。	探求型学習など生徒同士で学び合い教え合う場の機能を整えるため、図書資料の充実及びネットワーク情報資源の活用を進める。 広報誌の発行や企画展示等を通して生徒の自主的な読書活動の推進を図る。			
施設設備 管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	定期的に校内巡視を行い、安心・安全に加え保健部と連携し校内美化に重点的に取り組む。事務室内でも環境整備が必要な箇所を共有する。 年間の施設修繕計画を立てるとともに、業者による点検結果により、随時優先順位をつけて修繕を行う。			
修（就）学 支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	Classiでの連絡を随時行い、修（就）学支援等の周知を徹底し、申請漏れを防ぐ。 生徒についての情報を、担任・学年部長・教務部と共有する。			

令和8年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
学年	【第1学年】 生徒の規範意識、人権意識を高め、生徒自身が自主的、自発的に学習し、安心して自己の進路に向き合えることができる環境を構築する。	様々な場面で将来の進路を考えるきっかけを与え、学びの目的や学習規律の大切さを伝える機会を持つ。 家庭に対してきめ細やかな声掛けや面談を行い、保護者との連絡を密にとる。			
	【第2学年】 進路実現と成人に向けての準備のサポートを進めていく。最高学年に向けてのステップアップのために、自発性と協調性、社会性の育成を目指していく。	進路指導の見通しを持たせるために、生徒、保護者に向けての情報提供、今やるべきことを明示し、目標を持たせる。 成人年齢を迎える前に、社会的なマナーや基本的生活習慣を意識させるとともに、学校行事をととして主体的な生徒の活躍の場を提供する。			
	【第3学年】 進路実現に向けて、各自がそれぞれの場面で責任感を持って行動する習慣を持たせる。成人として社会に出る心構えをつくり、充実した高校生活を送らせる。	声かけや面談、家庭との連携を通して、ミスマッチのない進路実現に向けて、適切な指導・助言を行う。 学校行事や委員会活動、卒業アルバム制作等において、生徒自身が主体的に企画運営できる機会を設け、集団の中での役割を自覚し、責任のある行動がとれるように指導する。			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
国語	古典の基礎学力を向上させるとともに、古典への興味を引き出す指導を行う。	教科書、副教材等を活用しながら定期的な小テストを実施し、知識の定着を図る。 挿絵や図など視覚的な情報からアプローチを行い、イメージが難しい古典世界への理解を促す手助けを通して興味を引き出す授業を実施する。			
	家庭での学習習慣を日頃からつけさせる取り組みや意識付けを行う。	週末課題として課題を課し、取り組ませることで家庭での学習習慣を意識させる。 授業内においても演習等を通し、学習の仕方やポイントを学ばせることで家庭学習への一助となるよう指導する。			
地歴公民	大学進学など多様な進路を実現させるために必要な力をつけさせる。	文系クラスは日本史探究・世界史探究の力を伸ばす。 理系クラスは、歴史総合・地理総合・公共の力を伸ばす。			
	社会に対して関心を持ち、社会の構成員として貢献していく力をつけさせる。	政治経済を中心に様々な場面で、租税教育や主権者教育などを行い、卒業後に社会に出た姿を意識させる。 地理総合や歴史総合などで身近な教材を用いることによって、社会への関心を持たせる。			
数学	生徒が興味をもつ授業を実践し、生徒がやりきれるように支援する。	ICT機器を有効に活用し、生徒が課題に取り組みやすい環境を整える。 日々の授業中の課題やこまめな考査の実施により、基礎学力の定着を図る。			
	進路実現に向けた取り組みを計画的に行う。	実力テストや模擬試験等の事前指導、及び事後指導を充実させる。 進路希望に沿った長期休業中補習・平常補習を充実させるとともに、個別指導を計画的に行う。			

令和8年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
理科	生徒の科学に対する関心を高め、主体的な学習を促すとともに基礎学力の定着を図る。	実験・実習など生徒が科学に触れられる機会を増やす。 教育支援事業等を活用し、科学の本質に迫る授業を実施する。			
	個々の進路希望に応じた学習指導を実施する。	適切な難易度の課題や小テストにより学習内容の定着を図る。 進路補習において、個々の希望に応じた学習ができるよう支援する。			
保健体育	生涯にわたって健やかな身体を養うための知識を身につける。	健康作りのための運動の大切さを理解させるとともに体力づくりを実践する。 ルールやマナーを守り安全に配慮し授業を安全に円滑に行う。			
	スポーツ分野の実習等の充実	学年を超えた縦のつながりの強化を図る。 外部講師の活用を充実させる。			
芸術	基本的な授業態度を定着させる。作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	授業を大切にさせ、授業規律を守らせることで、生徒が集中して課題に向き合う授業を展開する。 単元毎に、生徒が自主的に考え、行動できていることを評価する。また、その評価を積み重ねることで、生徒の情操感や達成感を育む。			
	作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	時間をかけて取り組む過程を大切にし、作品を愛する心や情操感を養う。 作品の完成や発表だけでなく、取り組む過程・工程等、生徒が自主的に考え、行動できていることを評価する。			
英語	英語の基礎的な知識の定着を図る。	習熟度の確認を積極的に行い、早期に生徒の躰きを把握し、質問対応や、必要に応じて補充を実施する。 小テスト、Classi、ロイロノート等を利用し、家庭学習習慣を確立させる。ICT機器を活用し、分かりやすい授業や学習支援を行う。			
	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	パフォーマンステストやチームティーチングを活用し、4技能の統合を目指す取り組みを定期的・継続的に行う。 GTEC検定版や英語検定を活用し、生徒の学習意欲や学力の向上を図る。			
家庭	生涯にわたり自立した生活を営むために「生活を創造する力」を育成する。	主体的に生きる生活者として、必要な知識と能力を身につけることを目標に、実験・実習を取り入れる。 自分らしい生き方について考え、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。			
	持続可能な社会を支える消費者としての判断力と態度を育成する。	ICTを活用し、消費生活教育の充実を行う。主体的に情報を選択・判断できるよう、グループ討議やロールプレイを取り入れる。 新聞やインターネットを活用し、社会問題や環境問題などに触れることで、自身の消費行動を振り返る機会を作る。			

令和8年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する技能を習得させる。	実習を通して、問題の発見・解決に向けて様々なアプリケーションソフトを取り扱いながら情報活用能力を高める。 主体的・対話的な活動を積極的に行い、問題解決能力を高めることができるように指導内容を工夫する。			
	情報社会と人との関わりについて理解を深め、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	図解や動画など理解しやすい資料を活用しながら、情報社会に興味・関心を持てるように指導する。 情報社会と人との関わりについて、実践的な学びになるように指導内容を工夫する。			
学校関係者評価委員会による評価					
次年度に向けた改善の方向性					